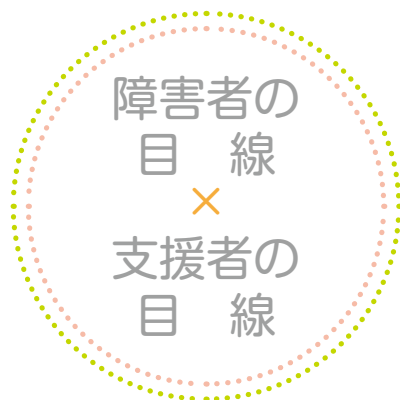


Nさん（32歳）
駅まで歩いて電車通勤を
しています



働いて一人暮らしをする

知的障害を持つNさんは、相談支援事業を受けながら町内で1人暮らしをし、(株)ユニクロに勤務しています。1人暮らし歴4年、勤続8年です。

「5時半になったら自然に目が覚めます」と話すNさん。それから部屋の掃除をし、前の晩に洗っておいた洗濯物を干し、朝ごはんを食べ、7時55分に出勤します。通勤には電車を使い

ます。Nさんの支援をしている相談員Iさんは、「通勤に使っているICカードのチャージの仕方、初めてのときは教えたけど、それからは自分でできるようにになりました」と話します。「チャージが切れたら駅に行きます。駅員さんも顔見知りです」とNさん。

ユニクロに就職する前は、苦労もあったそうです。「Nくんは、小、中、高校と普通学級で過ごし、高校を卒業してすぐ就職していたのですが、仕事と人間関係が合わずに1週間で辞めました。それから2か月は障害者職業センターでトレーニングをして、作業の向き不向きを見つけていきました。そして、ユニクロで正規職員として働くことが決まったんです」
「ユニクロでは、開店前の掃

除と、商品の荷受け、仕分け、補充をします」と話すNさんに、仕事をしていて大変なことはないですかと尋ねると、「特にありません」と即答。「仕事の内容も環境もN君に合っており、周りの理解もあるようで、辞めたいという話は聞いたことがありません。これからもずっと続けるもんな、Nくん」というIさんの問いかけに、「はい」と力強く答えていました。

理解者が増えてくれたら

仕事の帰りは1つ手前の駅で降りるそうです。「帰りにスーパーでおかずを買います。ごはんは自分で炊きます」とNさん。Iさんは最後に次のように話してくれました。「土曜日に2時間だけヘルパーさんに入っても

らっています。栄養面への配慮と、洗剤など消耗品の買い物、水まわりの清掃をお願いしますが、その他の日常生活はほぼ自分でできています。ただ、あまり日常的でないことへの対処は難しいようです。例えば、電球が切れた、風邪をひいた、でもどうすればいいか分からない。そんな時は電話がかかってくる。彼らにとつて難しいのは、誰かに状況を説明すること、気持ちを伝えることです。これらは彼らの状況が分かっているれば分かることばかりです。僕としては、もっと理解者が増えてくれたらと思います。それは、例えば近所の人でもいいし、スーパーの店員さんでもいい。彼のことを分かってくれれば1人でも多くなればと思います」

